



玉野高の魅力づくりについて意見交換した学校運営協会の初会合

学力の向上ときめ細かな進路指導を目指して単位制普通科への移行を予定。地域との連携で、中学生に“選ばれる、魅力的な学校を目指す。

(角南邦彦)

玉野高が2020年度から、地域住民らが学校運営に参加できる「コミュニティ・スクール(CS)」を導入し、6日、運営を担う学校運営協議会の初会合が開かれた。21年度には、

“選ばれる学校”を目指せ

運営協議会は市民や市内の事業所、行政、小中学校などの代表19人で構成。18人が出席した初会合では、会長に元校長の豊田啓介さん(69)＝北方＝を選び、学校運営の基本方針となる本年度の学校経営計画書を承認した。

ミッションとして「文武両道を受け継ぐ伝統校として地域と心を通わせながら『魅力ある学校づくり』を推進する」などを掲げ、生徒の個性を伸ばしつつ、意欲的な学習や向上心を持った挑戦を応援することが出来る学校を柱としている。

単位制普通科は、生徒が2年生から自然、人文、地域、医療、芸

21年度単位制移行 魅力アップへ地域と連携

術の五つの類系に分かれて学習。地域の協力で体験学習、インターシップなどのキャリア教育に力を入れ、将来の進路について考えるとともに、実現するための学力向上を目指す。

また、市内の中学生が減少している現実も踏まえ、市外からも進学先として関心を持ってもらえるよう、情報発信にも力を入れる。

会合では委員から「社会貢献や体験学習の充実には、小中学校としても賛同できる」「高校生の時期に地域に出て親しめば、進学などといったんは離れても郷土のことをずっと好きでいてくれるはず」といった意見が出た。豊田会長は「地域の中核校・玉野高の充実が地域の活性化にもつながるはず。積極的に協力したい」と話した。

今後は10月と来年2月に会合を予定。多田一也校長は「教育は地域の協力があってこそ。協議会に意見をいただきながら、社会や郷土のために活躍できる人材の育成に努める」と決意を語った。

市内では玉野商工高も、19年度にCSを導入している。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。